

金沢学院大学・金沢学院短期大学の教員養成に対する理念・構想

本学の教員養成の理念は、建学の精神「愛と理性」と教育理念「創造」及び教育指針（１）ふるさとを愛し、地域社会に貢献する。（２）良識を培い、礼節を重んじる。（３）社会の要請に応え、構想する力、実践する力を育む。の３つを具現化することである。

本学では、教育に対する情熱である「愛」と道義的な冷静さである「理性」を併せ持つ、教育指針にいう良識と礼節を持つと同時に、ふるさとを愛する心を育み、地域社会に貢献できる教員、社会の要請に応え構想力、実践力を身につけた豊かな人間性を有する教員の養成を目指している。換言すれば、グローバルな時代に対応した持続可能な地域社会を実現するために、これからの時代を生きる、地域社会を支える人材を育て、「創造的貢献」を実践できる教育者の輩出を目指している。

本学の教職課程においては、教職志望者個々人の特定の教科教育の力量を形成するだけに留まらず、様々な教科特性の理解や協働性の構築、教科の枠を超えた人間力・教師の職能成長を促進することを意図した教員養成を実施している。そのため、学科等の異なる学生同士が学び合える教育課程を編成している。

また、学校現場での勤務経験のある実務家教員を採用し、現場での実践例も踏まえた形で、主体的・協働的学び（アクティブラーニング）を導入した、理論と実践の融合を目指している。

さらに、平成 30 年 4 月より、本学の教員養成全体を俯瞰することを目的とし、専任の教職員を置く「教職センター」を設置している。教職センターでは、教職課程を履修する学生に対し、授業担当教員だけではなく、センター教職員が個別に面談を行うなど、学生の指導や支援を行っている。月曜から木曜の 5 時限目及び金曜の 4 時限目の時間を活用して教員採用試験対策講座を開講し、一年次から、教職に就くことを意識させるとともに、「一般教養」「教職教養」等に関する知識の定着を図っている。

以上のように、教育課程内における主体的・協働的な学修、定期面談による個々の人間力・職能成長、そして教職センターにおける時間外学修の促進を基本的な柱とした教員養成により、教職の使命観と高い実践力を有する、知的で魅力的な人材を輩出することを構想している。

各学科の教員養成に対する理念・構想

<文学部文学科>

文学科には学生の学びの軸となる日本文学・英米文学・歴史学・心理学の 4 つの専攻分野を置き、日本文学・英米文学・歴史学の 3 専攻において教員を養成している。

日本文学専攻では、日本語や日本文学に関する総合的な概説科目から学修を始め、文学と

言葉についての基礎的知識を幅広く身に付けることができるように科目を配置しており、中学・高校の国語科教員を育成することとしている。また、他専攻から英語や心理学、歴史学といった、これからの学校教育を担う人材に欠かせない分野の科目を履修させることが可能となっており、本専攻では日本文学に関する知識だけでなく、豊かな感受性と鋭敏な論理性を持った教育者を輩出することを目指している。

英米文学専攻では、英語という言葉がこれまでに作り出してきた文学や文化に関する基礎的概念、英語学諸分野の方法論を学び、英語という言葉の分析を通して、科学的・論理的に物事を考える力が身につくよう科目を配置しており、中学・高校の英語科教員を育成することとしている。また他専攻から、英語を教えるうえでの日本語力や心理学、歴史観などの専門知識を修得させる科目を修得することにより、多様な知見を持った教育者を輩出することを目指している。

歴史学専攻では、日本史、外国史、考古学といった歴史全般を学び、歴史に対する理解を深めるとともに、人文地理や自然地理、地誌といった地理学の学びを加え、中学（社会）・高校（地理歴史）の教員を育成する科目を配置している。加えて、他専攻科目から、日本語・英語などの語学力を高める科目や、日本・英米文学等の科目により、多様な学びを通して、バランス感覚を持った教育者を輩出することを目指している。

<教育学部教育学科>

教育学科は、「教育は国の基本」であるとの理念のもと、時代の要請に応えるべき、高度な教職の専門性と教育実践力をもち、かつ豊かな人間愛をそなえた、高度専門職業人としての教員養成を最大の目標としている。具体的には、教育学科の3ポリシーを具現化した教員養成、すなわち、国際化の進展、多文化共生社会の到来を直視し、希望ある未来社会の創り手として、自立した人間であり、他者と協働しながら、創造的に生き、何事にも主体的に取り組もうとする意欲や、多様性を尊重する態度、他者と協働するためのリーダーシップやチームワーク、コミュニケーション能力、豊かな感性や優しさ、思いやり等の資質・能力をもつ、国際的視野と人間的魅力に溢れた人材の育成を具現化できる教員を養成していく。

<経済学部経済学科・経営学科>

経済学科では、経済の仕組みや動きを理解、分析できる能力を身につけ、地域経済の現状を分析し、地域の持続可能性の向上に向けた諸課題の発見と解決方策の提案ができる、地域づくりの先導役となる人材を養成する。その中の大きな活躍の場の一つとして、高等学校の教員（公民）を想定している。

公民科教員には、よりよい社会の実現を目指して、主体的に社会の形成に参画し、身近な地域社会から地球規模に至るまでの課題を、多面的な考察をもって解決できる力を持ち、その力を教授することのできる能力が求められる。新たに設置することにより専門性を明確にした経済学科においては、法律学や政治学、社会学や経済学など社会科学系の学問を幅広

く学修することが可能なカリキュラムを編成し、広い視野で経済の仕組みを学べる体制をとることとしている。特に経済学に関しては、経済学科の中心学問である、「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「国際経済」「現代経済論」「労働経済学」「経済学史」など多様な講義を配置する。このように、幅広い視点から経済の仕組みを学ぶことを通して身につく公民科に関する知識や能力を生かして、地域社会に貢献できる以下のような教員を養成する。

①現代社会を取り巻く環境を、経済を通して分析できる教員。

②日本のみならず、グローバルな視点で社会全体を見渡すことができる教員。

③地域の経済動向をとらえ、情報収集と分析をおこない、常に専門的知識の探求ができる教員。

経営学科では、企業経営の現状を経理・会計情報を基に分析し、意思決定材料となる客観的データを基に企業活動の状況を組織内外に説明することにより、適切な組織マネジメントのできる人材を養成する。その中の大きな活躍の場の一つとして、高等学校の教員（商業）を想定している。

商業科教員には、実践的・体験的な学習活動と、ビジネスに関する知識を相互に関連付けて、地域産業をはじめとする経済社会が健全で持続的に発展する上での具体的な課題を科学的根拠に基づいて解決し、他者との関わりを通して、よりよいビジネスを構想する力を持ち、その力を教授することのできる能力が求められる。新たに設置することにより専門性を明確にした経営学科においては、経営、商法、会計、マーケティング、消費者行動、ビジネス戦略などの学問を幅広く学修することを可能とし、広い視野で商業に関する知見を学べるカリキュラム編成となっている。具体的には、「経営学基礎」「経営管理論」「商法」「会計学基礎」「財務会計」「経営分析」「マーケティング論」「消費者行動論」「ビジネス戦略」「企業価値評価」のように充実した講義を配置する。このように、幅広い視点から商業に関する知見を身に付け、商業分野に強い以下のような教員を養成したい。

①現代社会を取り巻く環境を、経営を通して分析できる教員。

②日本のみならず、グローバルな視点で社会全体を見渡すことができる教員。

③地域の経済動向を商業の視点でとらえ、情報収集と分析をおこない、常に専門的知識の探求ができる教員。

<芸術学部芸術学科>

北陸は、伝統工芸をはじめとして、美術的土壌の豊かな地域である。中学・高校教育においても、団塊の世代の教員が退職を迎えつつある状況において、この地域の美術教育の担い手を養成することは急務である。芸術学科においては、表現領域についての広汎な技術及び知識と、社会に対する深い洞察力を養成し、円滑な意思疎通や自己表現に資することのできる創造性豊かな、以下のような教員を育成する。

①現代社会における芸術の役割を理解し、芸術を通して新たな社会を築くための創造力と実行力を備えた教員を養成する。

②個人制作と協働制作の両方の過程を経験することにより、創造的思考・論理的思考の養成のみならず、社会における自己の役割を認識し、意思決定を行い行動できる教員を育成する。

③本学部で養成された創造性や観察力、課題発見・解決能力と芸術の専門的な知識・技術を活かし、多様な教育環境で活躍できる教員の養成を目指す。

＜スポーツ科学部スポーツ科学科＞

スポーツ科学科は、その教育目標・人材像を「体力等の向上を図る地域のスポーツ愛好者から競技力の向上を図るアスリートにいたるまでの最先端のトレーニング論と、現代社会に求められる健康づくりや身体づくりのための健康科学を、理論と実際の面から学び、スポーツ及び健康にかかわって深く貢献できる次代を担う人材を育成する。」としており、「専門知識と理論の習得はもとより、社会の変化や時代が要請する創造性と革新性を志向する人材、人格においても高い倫理性と社会的規範を有する人材の育成を目指す。」としている。

これらを実現するために編成した体系的な教育課程では、中学校、高等学校・保健体育科の教員免許状取得に必要な「教科に関する科目」を適切に配置しており、「教職に関する科目」の履修とあわせて、保健体育科の教員として必要な資質能力を身に付けた人材を育成することが可能となっている。また、学校運営上の必要能力を身につけ、高等学校指導要領に示された「学校における体育・健康に関する指導」の趣旨を活かし、生徒が「より良く生きる力」を育むよう、特別活動、総合的学習、運動部の活動などとの関連を図り、生徒の心身の健康問題に適切な対応が出来る学校の全体計画を作成し、さらに家庭や地域社会と連携を取りながら指導が進められる保健体育教員の養成を目指している。

＜栄養学部栄養学科＞

栄養学科では、教職課程の履修を通じて、学生が教職への理解を深め、教職に就くことに対する確固たる信念を持つこと、専門的な知識と技能を自己の中で統合し、教員として必要な資質能力の全体を確実に形成することができるよう図っており、学校現場での実践力や応用力などを取り入れ、教員としての高い専門性の確保を目指している。また、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級指導や教科指導、生徒指導等の職務を実践できる資質能力の修得ができるよう、教職課程の個々の科目の履修により修得する専門的な知識と技能を基に、学校教育に関する理論と実践の融合を強く意識した教員養成プログラムの実現を目指している。

栄養学科における教員養成の理念と人材養成の目的を達成するために、次の具体的な資質能力を備えた栄養教諭を育成することとする。

①教科指導や生徒指導等に関する基礎的・基本的な資質能力の修得とともに、これらを基盤とした実践的な指導実践力を持った教員を育成する。

②豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法を備え、的確な意思疎通により対人関係

を形成できる人格的資質を備えた教員を育成する。

③他の教職員と協調・協働して責任を果たし、教育活動の活性化に貢献できる基本的な資質を持った教員を育成する。

④児童生徒はもとより、教員相互、保護者や地域社会との円滑なコミュニケーションを図ることができる資質能力を持った教員を育成する。

⑤主体的・創造的に課題への探求に取り組み、解決するための力を高めるために、継続的に自己研鑽できる資質能力を備えた教員を育成する。

⑥常に専門性の向上を図るとともに、不断に最新の専門的知識や指導技術等を身につけるための基礎的な研究能力を備えた教員を育成する。

<情報工学部情報工学科>

情報工学科では、数学（中一種・高一種）と情報（高一種）の免許を取得することができる。現代数学の基礎を系統的に学び、確実に身につけることを第一の目標としており、4年間を通じて、学生の能動的に考える力を伸ばし、論理的思考力を訓練し、多面的な問題解決力を身に付けていくことを目指している。数学の専門知識に加え、数学の指導者として生徒の苦手意識を克服するための指導法を身につけた中学・高等学校教員を育成することは本学科の重要な目標として位置付けている。

教職課程では、数学科教員にとって基礎となる代数学、幾何学、解析学、確率論・統計学、コンピュータに関する内容を修得させ、教育現場で活用できる力を身に付けさせる。教育数学の基本となる「線形代数学Ⅰ」「線形代数学Ⅱ」「幾何学」「微分積分学Ⅰ」「微分積分学Ⅱ」「統計基礎」「確率基礎」などの科目を学ぶことで、内容に深みをもった発展的授業を構成できる素養を育てていく。

本学科は情報工学科であることから、「プログラミングⅠ及び演習」「プログラミングⅡ及び演習」「コンピュータの構成」「コンピュータアーキテクチャ」などの情報系科目が充実しており、数学教員にとって必要となるコンピュータ関係科目を修得できるカリキュラムとなっている。数学及び情報の確実な専門的知識を備えた中学校・高等学校教員を育成することは、教育現場から求められている人材であり、本学科はそのニーズに応えることのできる学科である。幅広い視野で、数学及び情報の本質を数理的に理解し分析することのできる教員を育てることを目標としている。このように、数学と情報学を横断的に学ぶことができるカリキュラムを通して、数学だけでなく情報学に強い以下のような教員を養成したい。

①数学の学びを通して、生徒の論理的思考力や問題解決力を伸ばすことのできる教員。

②数学や情報の専門的知識だけでなく、その他の学問も含めて、学際的に学び続ける教員。

③知識の習得にとどまらず、物事の奥にある普遍的な原理や本質に迫る鋭い洞察と深い理解や認識を育むことのできる教員。

情報科教員には、情報技術が急速に進化していく時代にふさわしい情報モラルを身につけ、問題解決や目的達成のために情報や情報手段を適切に活用し、情報を主体的に捉えなが

ら他者と協働して新たな価値を創造できる力を持ち、その力を教授することのできる能力が求められる。新たに設置する情報工学科においては、専門としての情報工学を明確にするだけでなく、データ科学分野の学びを加えた具体性をもった講義内容を構築し、情報工学と情報技術の関わりを学ぶと同時に、情報学の理解と情報技術の修得が可能となるカリキュラムを構築する。情報科教員養成という立場から、情報のリテラシーやモラルについての理解も重要であるため「情報社会論」「情報倫理」などの学際的な科目と「プログラミングⅠ及び演習」「プログラミングⅡ及び演習」「コンピュータの構成」「コンピュータアーキテクチャ」「データベースⅠ」「機械学習Ⅰ」「機械学習Ⅱ」「情報通信ネットワークⅠ」「情報通信ネットワークⅡ」「情報セキュリティ」「マルチメディア表現と技術Ⅰ」「マルチメディア表現と技術Ⅱ」など情報学に関する講義を配置する。また、情報工学を利活用して職業に従事するものが備えるべき倫理観や職業観を指導するために「情報と職業」を学ぶ講義も設ける。このように、幅広い視点から情報学を学ぶことが可能なカリキュラムを編成し、情報学に強い以下のような教員を養成したい。

- ①現代社会を取り巻く環境を、情報学を通して分析できる教員。
- ②日本の地域社会のみならず、グローバルな視点で社会全体を見渡すことができる教員。
- ③世の中の動向をとらえ、情報収集と情報技術を活用した分析をおこない、常に専門的知識の探求ができる教員。

<金沢学院短期大学食物栄養学科>

わが国では少子高齢化など社会環境が大きく変化し、朝食をとらないなどの子どもの食生活の乱れが指摘されるなど、食生活の多様化が進んでいる中で、食育や健康志向といった「食と栄養」に注目が集まっている。食物栄養学科では、そのような課題に適切に対処し、学校給食の管理・運営に関わりながら、子どもたちに栄養のとり方や正しい食生活のあり方についての知識を身につけさせることのできる、食に関する指導の推進に役立つ栄養教諭を育成する。

<金沢学院短期大学幼児教育学科>

幼児教育学科では、人間愛を持った良識ある保育者を育成することを目的としており、教育・保育の現場でその実践ができる人材を育成することが、本学科の教員養成に対する理念である。特に短期大学であることを踏まえ、保育者として即戦力となるために必要な知識と実践的な力を2年間で身に付けるよう教育課程を編成する。段階を踏んだ実習を核とする教育システムを構築し、教科で学んだ基礎的な知識や技能を総合的に応用する力を養うことができるようカリキュラムを構成する。